

氏名 上 村 致 信

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 933 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和53年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)学 位 論 文 題 目 急性白血病の化学療法に関する研究
第 1 編 Neocarzinostatin 単独による寛解導入療法
第 2 編 Neocarzinostatin を中心にした多剤併用による寛解導
入療法

論 文 審 査 委 員 教授 大 藤 眞 教授 長 島 秀 夫 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

新しい抗白血病剤の開発による急性白血病化学療法の改善を目的として、これまでヒト白血病の治療には全く使用されていなかった国産の制癌性抗生物質 Neocarzinostatin (NCS) を初めて急性白血病の寛解導入剤として用いた新しい化学療法の研究を行った。

第 1 編では急性白血病患者 18 症例に対し、NCS 0.04～0.06 mg/kg/日を単独で連日 4～5 日間点滴静注するのを I コースとし、7～10 日間の休薬期間をおいて間歇投与をする方法を用い、18 症例中完全寛解 7 例 (38.9%)、部分寛解 4 例 (22.2%)、合計 11 例 (61.1%) に寛解が得られたのみならず、正常増血抑制作用およびその他の副作用は極めて軽度である事を報告した。

第 2 編では第 1 編の成績に基き、NCS と他の抗白血病剤との併用による多剤併用療法を急性白血病患者 63 症例に施行し、63 症例中完全寛解 51 例 (81.0%)、部分寛解 9 例 (14.3%)、合計 60 例 (95.3%) の寛解が得られたので、その成績を報告すると共に、今後の問題点について検討した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は急性白血病の化学療法に関して、臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった neocarzinostatin の治療効果について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。